

請 願 文 書 表  
(令和4年第4回定例会)

請 願 第 1 1 号	令和4年11月4日受理
付 託 委 員 会	福祉常任委員会
件 名	八千代医療センターの新規患者受け入れ再開を求める件
紹 介 議 員	飯 川 英 樹 議員      三 田            登 議員
請 願 要 旨	<p><b>【請願の趣旨】</b></p> <p>八千代医療センターは、2006年12月に稼働病床150床で診療が開始されました。市は、開院した2004年から補助金交付を開始し、昨年度までで約92億5,000万円の補助金と、無償貸与するために取得した土地約2万9,000㎡の約15億円を足すと、昨年度までに約107億5,000万円を投入してきました。それだけ市が財政を投入するのも八千代医療センターが市民病院だからであり、八千代市における地域医療の要として位置づけられてきたからに他なりません。</p> <p>その八千代医療センターにおいて、あろうことか約2年前から呼吸器内科、血液内科、糖尿病・内分泌代謝内科、リウマチ・膠原病内科、皮膚科の5科の常勤医師が不在となったままであり、そのために新規患者の受け入れが中止され、登録医が担う関係か、少なからずの従来患者も転院を余儀なくされています。また、他の科からも退職が増加し、令和2年時に在職していた211人の医師は現在158人と、53人も大幅に減少しています。</p> <p>令和2年には黒字にもかかわらず全職員対象に夏のボーナスゼロを通告。約400人の看護師などが一斉に退職の意向を表明したことが大きくマスコミ報道されました。最近でも本院において集中治療科の医師9人が一斉退職することが決まり、ICU（集中治療室）が事実上の崩壊状態になるなど、患者の命を無視した経営方針と、職員の医師たちを恐怖で支配する女子医大理事会の異常な実態がクローズアップされています。このように、ことの本质は八千代医療センターの司令塔である東京女子医大本院の理事会体制にあることは明白です。</p> <p>なにより重要なのは、市民である患者の皆さんの御苦勞です。このように、2年に及ぶ新規患者受け入れ中止と院内での医師や看護師不足による病院の運営体制の脆弱化は深刻です。</p>

請 願 文 書 表  
(令和4年第4回定例会)

私たち「市民が主役の市政を実現する会」は多くの市民の声を代弁すべく、本請願を貴議会に提出しました。本来あるべき体制で医療センターが機能して、市民が安心して健康な日常生活を送るために下記にある本請願の採択を強く求めるものです。

**【請願内容】**

八千代医療センターの現状は、八千代市と八千代医療センターが交わした基本協定の理念に反している。したがって、下記を請願する。

- 1 八千代医療センターの長期にわたる内科5科の新規患者受け入れ中止解決のために、とりわけ服部市長がリーダーシップを発揮して、東京女子医大岩本理事長とトップ交渉して問題解決をはかること。
- 2 同様に八千代医療センター院長と抜本的解決に向けて交渉すること。
- 3 市と医療センターとの唯一の協議体である「八千代医療センター運営協議会」が、議長である医療センター院長が運営支配していることは協議会本来の趣旨に反している。対等の立場で議題設定や協議をする本来の協議会にすべく協定の見直しを行うこと。